

指定管理者による図書館及び図書館を核とした複合施設運営事例		
事例テーマ	事例施設	運営内容
図書館を核とした施設が賑わいの中心になる	大和市文化創造拠点シリウス (神奈川県)	開館1年間で来館者300万人達成
	玉野市立図書館・中央公民館 (岡山県)	開館8カ月で年間来館者目標30万人達成
	学びの杜ののいちカレード (石川県野々市市)	開館40日で来館者10万人達成
親子連れに優しく、気兼ねなく楽しめる	大和市文化創造拠点シリウス	施設3階のフロア全体を「大和こどものくに」と名付け、こども図書館、屋内こども広場、赤ちゃんの駅(授乳・おむつ替え)、保育室(託児)等の機能を複合。屋内こども広場は、0歳児～2歳児を対象とした「ちびっこ広場」、3歳児～小学2年生を対象とした「げんきっこ広場」という2つの遊び場を設け、親子で気兼ねなく思いきり遊べる。 資格を持った保育士が常駐しており、安心して子どもを預けながら講座に参加することで、子育て中のお母さんも新たな学び、つながりを得ることができる。
子育て支援に積極的に関わる	守谷市立守谷中央図書館 水戸市立図書館(ともに茨城県)	保育士や幼稚園教諭の資格を持ったスタッフを「育児コンシェルジュ」として配置。育児関連書籍の案内、年齢に応じたこども向けの絵本の紹介や読み聞かせ、図書館を通じた交流の場の提供を
学校と連携し、こどもたちの学びを支援する	三田市立図書館(兵庫県)	市内小中学校と連携し、調べる学習教室を実施。学校に図書館スタッフが出向いて、百科事典の調べ方、レポートのまとめ方などについて、実際の本を見ながら学んでもらい、夏休み中には図書館に来てもらって、図書館の本の分類、テーマにあった本の探し方について知ってもらい、レポートをまとめる作業を館内で行ってもらう。

地域の記憶に光をあて、未来につなげる	和泉市立和泉図書館（大阪府）	市内に伝わる昔話をデジタル化してインターネット上で閲覧できるようにすることで、世代を超えて地域の歴史や伝承に触れるこ
	徳島市立図書館（徳島県）	市民が持っている徳島市の古い写真をデジタル化してインターネット上で閲覧できるようにすることで、地域の移り変わりを市民の記憶と重ね合わせながら辿ることができる。
企画力を活かし、地域文化の向上に寄与する	学びの杜ののいちカレード	地元出身の世界的アニメーターの展覧会やNHKの人気教養番組に関連した講座を企画するなど、都市部とも引けを取らない内容の事業を行い、市民満足度を高めている。
	飯塚市立図書館（福岡県）	こどもたちに科学の面白さを体験してもらおうと、地域の大学、高校、企業、市経済商工部局、教育委員会が連携し、2日間にわたって市内で科学実験や体験ができるイベントを多数行う。図書館は企画の中心となり、関係者をつなぐ役割を担っている。
複合する機能と連携し、交流の輪を広げる	東根市公益文化施設「まなびあテラス」（山形県）	美術館や市民ギャラリー、市民活動支援センターとの複合施設であることを活かし、アートに関連した多彩なワークショップや講座を開催。市民の中のアートへの関心を高め、施設への愛着、参加意欲を高めている。
	千代田区立日比谷図書文化館（東京都）	ミュージアム機能、ホール、研修室等との複合施設であることを活かし、館内で行われる展示やセミナーに関連した資料を図書館に展示。参加者は新たな気づきを得て、学びを深めることができる。
地域に溶け込み、市民と協働する	川南町立図書館（宮崎県）	町立小学校の運動会翌日が代休になることに合わせ、その日を「一日だけのわくわく図書館タウン♪」として地元の小学生に開放、館内で演劇、手品、ボードゲームなど盛りだくさんのイベントを行う。臨時のシャトルバスを町内で運行し、遠方の小学生も来られるようにしている。
	おおぶ文化交流の杜（愛知県大府市）	平成26年の開館時から、市民参加によるサポート団体（おおぶの杜育み隊、図書館サポーターズ）と協働した運営を行っている。市民参加で9万羽の折鶴をつくるプロジェクトを実施し、完成した折鶴は開館3周年記念式典でも会場を彩った。

若者を呼び込み、居場所をつくる	高梁市立図書館（岡山県）	駅前にカフェや書店、観光案内所と併設され、おしゃれで居心地のよい空間が多く、若者を呼び込んでいる。3階の屋内テラス席は、カフェで購入した飲み物を持ちこんで多くの若者が勉強をし
	学びの杜ののいちカレード 名古屋市志段味図書館（愛知県）	地元大学の学生に参加してもらい事業を行っている事例。金沢美術工芸大学の学生による来館者の似顔絵プレゼント（ののいちカレード）や、金城学院大学の学生がコーディネートし中高生と本を素材に語り合うイベント（志段味図書館）など、若者の主体的な参加により新たな利用者を呼び込もうとしている。
まちとつながり、まちに出ていく	あかし市民図書館（兵庫県）	明石駅周辺のおいしい飲食店や喫茶店を利用者に紹介してもらい、地図に表示していく「あかしおすすめグルメマッピング」を図書館で作成。市民参加により地域密着の情報を発信し、観光客のまち歩きに誘導している。
	千代田区立千代田図書館 （東京都）	コンシェルジュが館内に常駐しており、館内だけでなくまちなかの情報も案内している。出版社や古書店が集積する「本のまち」であることから、コンシェルジュがまちに出て本のまちのツアーを行っている。
地元企業、団体と連携して運営する	弘前市立図書館（青森県）	地元コミュニティFM放送局の運営企業、地域の文学活動を牽引してきたペンクラブと、全国的な図書館運営実績がある企業との共同企業体で運営。コミュニティFMを通じた広報、地域に密着した
	田川市図書館（福岡県）	隣接する市立美術館と合わせ指定管理者による一括運営のため、美術館運営ができる地元企業と全国的な図書館運営実績がある企業との共同企業体で運営。美術館で行われる展覧会に関連する資料の特集展示を図書館で行うなど、密接に連携している。

SNSを活用し、図書館をアピールする	鹿角市立図書館（秋田県）	図書館のキャラクターによるLINEスタンプを作成して、販売している。新たなコミュニケーションツールとして普及しているLINEを通じて、図書館を身近に感じてもらえる工夫をしている。
	東根市公益文化施設「まなびあテラス」	美術館の展覧会に関連した展示物と撮影できるスポットを設けたり、Instagramに載せやすいフレームをつくって撮影してもらうなど、施設の魅力、活動の様子がSNSを通じて拡散しやすい
山形県内における取組み事例	新庄市立図書館	地域で手作りしたものを売買することを通じて交流を深めるイベント「kitokitoマルシェ」に移動図書館車を出店し、山形大学学生によるおはなし会や地図を再利用したエコバックづくりなどを行っている。また、地元高校生によるおはなし会を図書館で開催するなど、若者を巻き込んだ事業にも力を入れている。